

科目名	ピアノⅢ	科目ナンバリング	KC2M1C03		
担当者	田中 幸子・塩津 貴子・住江 智子・吉良 千波・光永 育				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				BDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	子どもの感性の発達に役立つ、子どもに寄り添う音楽を探求する。3, 4年次の保育実習、幼稚園教育実習、施設実習を視野に入れて課題曲を確実に暗譜する。幼児を前にしている想定で演奏することを習慣づける。			
授業の概要	ピアノⅠ、Ⅱで学修したピアノ実技の基礎に、新たな課題曲で子どもの感性の発達に役立つ音楽的表現を深めるための個人レッスンを行う。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 童謡の意義の振り返り 基本的姿勢、タッチと音色	シラバスを読む 明るく元気な音を身につける	レッスンカードの 使い方確認、毎週 の練習計画
	2	二長調のコードとベース 園生活の歌・登園	ハ長調と二長調の コードを練習して おく	ベース伴奏も並行 して使えるように する
	3	息づかいとフレーズ 春の抒情的な歌	歌詞読みをして生 活の歌との違いを 感じ取る	情景を表す音楽 的表現を身につ ける
	4	問と答え 抒情的対話の歌詞	ブレスの位置や区 切り方を考え語り 掛ける表現を学ぶ	親子・愛情・絆に 関する童謡や歌 をまとめる
	5	付点リズムの連続と拍感 生活の歌	軽快な付点リズム の旋律を自由に 弾けるよう練習す る	アクセントにより 表現が変わること を感じ身につけ る
	6	ピアノの基礎訓練 主旋律と伴奏形のバランス	片手・部分練習で 技術を上げフレー ズや・形式を学ぶ	フレーズ感・呼吸 を意識し表現に繋 げるようにする
	7	成果発表 個別の目標を立てる	人に伝える、気持 ちを込める等を意 識して練習する	発表を聴き、感 想・意見を述べ、 自分の演奏を振り 返る
	8	情景に合わせた強弱の解釈 楽譜の読み取り	教科書以外の楽 譜も調べ自分に合 う伴奏形で練習す る	曲の強弱の変化 を読み取り、表現 に反映させ身につ ける

	9	歌詞の情景とフレーズ 季節の歌	歌詞の長い曲は 表現内容を考えて 練習する	簡易版のない伴 奏の編曲の仕方 を身につける
	10	へ長調のコードとベース 生活・行事の歌	園以外で耳にする 曲や歌は分析的 に譜読みする	ベースの表現の 重要性を意識す る
	11	前奏を効果的に用いる よく知られた童謡	フレーズの区切り と歌詞の関係を考 え譜を読み込む	スタッカートの切り 方で表現が変わ ることを学ぶ
	12	マルカートとレガート 音の高さと音色	前奏が歌の旋律 やリズムを含まな い曲の練習法を 考える	自己の表現方針・ 方法を決め編曲し 仕上げる
	13	変拍子に慣れる 生き物の歌	拍子が変わる曲 の拍どりを確実に 理解して譜読みを する	特色を持った歌は 園児に与える影 響を考え表現する
	14	同名の曲・複数のペンネーム 夏の歌	作詞・作曲者を丁 寧に調べ曲の背 景を知る	弾きやすくなる コードの分散やリ ズムの練習法を 考える
	15	表現の振り返り まとめ	実技試験課題曲 の表現方法を整 理し暗譜に取り組 む	こどもの感性を高 める表現に努め、 完全に暗譜する

使用教科書	ポケットいっぱい <u>のうた</u> (教育芸術社),
	こどもの <u>うた</u> 200(チャイルド社),
	続・こどもの <u>うた</u> 200(チャイルド社)
参考書・参考資料等	日本童謡200選(音楽之友社),
	音楽リズム・ <u>幼児の歌</u> (東京書籍)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末試験(ピアノ実技)	80%	テンポ、フレーズ感
平常点	20%	毎回の練習状況、レッスンへの取り組む姿勢	

科目名	ピアノⅣ	科目ナンバリング	KC2M1C04		
担当者	田中 幸子・塩津 貴子・住江 智子・吉良 千波・光永 育				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	BDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	童謡を内容(言葉・歌詞、音楽性、情景・情感)から深く学ぶことにより、心身の発達を促す教材であることを認識する。子どもの歌の伴奏としてふさわしい表現ができること、そして基本の技術が伴った演奏ができるようになる。保育現場で通用する演奏を目指し、指定された曲を確実に暗譜で演奏する。			
授業の概要	ピアノⅢまでに学んだ表現法の発展のために、音楽理論やソルフェージュも駆使して、基礎訓練を含んだ個人レッスンを行う。曲の構成や背景、歌詞を調べて実技練習に臨む。課題は確実に暗譜すると共に、子どもに向き合う想定に慣れるよう指導する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション ピアノⅠ～Ⅲの総括	自己の到達度を振り返り、夏休みの課題を仕上げる	よりよいレッスンカード活用方法を考える
	2	へ長調の分散和音 行事の歌	躍動感のある明るい音のための打鍵と拍子感を練習	確実な暗譜、幼児を見ながら演奏できるようにする
	3	二長調のコード伴奏 園生活の歌・登園	合理的な運指を予習しておく	同名の他の曲についても調べて練習
	4	コードの形が変わる伴奏 園生活の歌・降園	アルベルティバスのみ、分散和音のみで伴奏しておく	伴奏部分と歌のない後奏部分のバランスや奏法を研究
	5	語りかける表現と音色 童謡の名曲	歌詞の内容とアーティキュレーションに気を付けて弾く	フレーズをしっかり読み取り歌詞に合った世界観を研究
	6	付点リズムの順次進行 秋のあそび歌	ハ長調の分散和音を整理し、無駄のない右の運指を練習	園児と一緒にリズムミカルに弾き歌いできるようにする
	7	音の風物詩 秋の抒情的な歌	オリジナル楽譜を調べ、楽語や表記法を知る	原調二長調と園児向きのハ長調を練習
	8	連弾 アンサンブルを楽しむ	自分のパートの個人練習に責任を持って取り組む	お互いの演奏を注意深く聴き、意見を交わせるよう研究

	9	ト長調の分散和音 冬の行事の歌	ト長調のコードを 復習しておく	アウフタクトの開 始合図に慣れる
	10	付点リズム 冬の軽快な歌	単純な音取りに終 わらず、譜読みを する大切さを知る	付点リズムの軽 快さを自然に出せ る訓練法を考える
	11	両手伴奏とベース伴奏 元気な童謡	基本コードから少 し発展させたC6に ついて調べ練習	オリジナル又はそ れに近い前奏を つける意義を考え る
	12	旋律の弾き方・連打 リズムカルな歌	旋律のソルフェー ジュ的予習をしつ かりする	旋律のリズムが 細かい曲で効果 的に音を削る方 法を模索
	13	6/8拍子を考える 行事の歌・お別れ会	ハ長調のコード伴 奏(分散和音)を 転ばないように練 習	左右の音符数、 旋律と伴奏(役 割)のバランスを 研究
	14	ヘ長調のベース伴奏 行事の歌・卒園	旋律とベースを 別々に練習して コードを書きこむ	両手伴奏による 弾き歌いに発展さ せる
	15	ピアノIVの振り返り まとめ	旋律と歌詞、プレ スとフレーズを大 切にしながら暗譜	童謡の目的、効 果、勉強法をまと める

使用教科書	ポケットいっぱい <u>のうた</u> (教育芸術社),
	こどもの <u>うた</u> 200(チャイルド社),
	続・こどもの <u>うた</u> 200(チャイルド社)
参考書・参考資料等	日本童謡200選(音楽之友社),
	音楽リズム・ <u>幼児の歌</u> (東京書籍)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末試験(ピアノ実技)	80%	テンポ、フレーズ感、「さんはい」等かけ声
平常点	20%	毎回の練習状況、レッスンへの取り組む姿勢	

科目名	ハーモニー I	科目ナンバリング	KC2M1T28		
担当者	中村 真貴				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	CDE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	本来の機能と和声の基礎を学び理解したうえで、幼児期の音楽教育によりよい影響と楽しさを与えることの出来る指導者を育成することを目標とする。			
授業の概要	ハーモニー I では、昨今の幼児の音楽環境に対応し実践力をつけるため、コードネーム、キーボード・ハーモニーの基礎を学び、簡易伴奏付け、弾き歌いへと発展させる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	音楽の成り立ち、主要三和音と副三和音	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	2	和音とコードネーム・キーボードハーモニー①スケール	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	3	和音とコードネーム・キーボードハーモニー②カデンツ	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	4	和音とコードネーム・キーボードハーモニー③コード	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	5	和音とコードネーム・キーボードハーモニー④これまでの復習	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	6	コードネームによる和音の連結(属7を含む)	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	7	I . IV . V . V7による伴奏付け	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	8	コードネームによる童謡の伴奏付け(片手伴奏、両手伴奏)	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする

	9	歌唱曲(童謡)の分析と発展	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	10	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル①伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	11	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル②調を変えて伴奏してみる	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	12	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル③メロディにコードをつける	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	13	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル④メロディの調を変えてコードをつける	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	14	童謡の伴奏付け/キーボードアンサンブル⑤復習	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする
	15	まとめ(総復習)	シラバスをよく読む	授業でしたことの復習をする

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末試験	60%	実技試験
課題/レポート	20%	課題への取り組み	
平常点(態度・行動観察)	20%	受講態度	

科目名	幼児合奏指導 I	科目ナンバリング	KC2M1N24		
担当者	木野 聖子				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ADEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	幼児教育で扱う打楽器の基本的な奏法を習得し、人と合わせるためのリズム・ソルフェージュを通して合奏を行うための基礎を身につけることができる。			
授業の概要	授業を前半と後半に分け、前半ではリズム・ソルフェージュを行い、後半では打楽器奏法の基礎を学ぶ。現場で必要となる様々な打楽器に触れ、こどもたちの音楽性を伸ばす技術を身につけるとともに、協調性や社会性など幼児期に必要な資質を育む基礎を学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーションと授業の進め方についての説明	シラバスを読む。	授業に備える。
	2	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修①	現場で使用する楽器の種類を考える。	授業内容の復習
	3	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修②	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習
	4	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修③	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習
	5	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修④	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習
	6	基本的なリズム・ソルフェージュと現場で使用する打楽器の様々な奏法および調整の仕方の学修⑤	前時の授業をもとに練習する。	授業内容の復習
	7	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習①	自分の担当パートの確認	授業内容の復習
	8	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習②	自分の担当パートの確認	授業内容の復習

	9	グループによるリズム・ソルフェージュの学習と打楽器のアンサンブルの練習③	自分の担当パートの確認	授業内容の復習
	10	打楽器のアンサンブルの練習④	自分の担当パートの確認	授業内容の復習
	11	打楽器のアンサンブルの練習⑤	自分の担当パートの確認	授業内容の復習
	12	打楽器のアンサンブルの練習⑥	発表会の練習	授業内容の復習
	13	打楽器のアンサンブルの練習⑦	発表会の練習	授業内容の復習
	14	発表会	発表会の練習	発表会の振り返り
	15	まとめ～これまでの流れを振り返り、授業内容を復習する。	これまでの授業内容の振り返り	学修のまとめとしてレポートを作成する。

使用教科書	
参考書・参考資料等	授業中に適宜指示

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(積極性、理解度)	60%	事前・事後学修に基づく授業への参加態度
課題 / レポート	20%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容	
発表会の評価	20%	パフォーマンスとしての完成度	

科目名	幼児合奏指導Ⅱ	科目ナンバリング	KC2M1N25		
担当者	木村 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				BE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	打楽器と鍵盤ハーモニカを用いた幼児合奏の指導法を学ぶ。年齢に合わせた合奏指導ができるようになることを目標とする。			
授業の概要	幼児合奏指導Ⅰで学修した打楽器の奏法とアンサンブルの基礎の上に、リード楽器(鍵盤ハーモニカ)の奏法と幼児合奏における使い方を学び、小物楽器と組み合わせた合奏の方法を修得する。その基礎としてのリズムソルフェージュ、身体表現も行い、合奏を通してこどもたちの聴く力・表現する力を育み、さらに協調性と社会性を涵養するための方法を身につける。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーションと授業の進め方についての説明	シラバスを読む	配布プリントを読む
	2	リズム・ソルフェージュ、カスタネットの奏法を学ぶ①	配布プリントの課題を行う	授業内容の復習
	3	リズム・ソルフェージュ、カスタネットの奏法を学ぶ②	課題曲を練習する	授業内容の復習
	4	リズム・ソルフェージュ(身体表現)、カスタネットの奏法を学ぶ③	課題曲を練習する	授業内容の復習
	5	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ①	鍵盤ハーモニカについて予習する	授業内容の復習
	6	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ②	課題曲を練習する	授業内容の復習
	7	鍵盤ハーモニカの奏法を学ぶ③	課題曲を練習する	授業内容の復習
	8	幼児の発達と音楽について	教科書の「各年齢の発達と音楽」について予習する	授業内容の復習

	9	グループによる鍵盤ハーモニカと打楽器のアンサンブル①	2歳児の合奏について考える	授業内容の復習
	10	グループによる鍵盤ハーモニカと打楽器のアンサンブル②	3歳児の合奏について考える	授業内容の復習
	11	グループによる鍵盤ハーモニカと打楽器のアンサンブル③	4歳児の合奏について考える	授業内容の復習
	12	グループによる鍵盤ハーモニカと打楽器のアンサンブル④	5歳児の合奏について考える	授業内容の復習
	13	グループによるリード楽器と打楽器のアンサンブル⑤	発表会の練習	授業内容の復習
	14	発表会	発表会の練習	発表内容をレポートにまとめる
	15	まとめ	これまでの授業内容の振り返り	最終レポートを作成する

使用教科書	『保育で使える合奏楽譜ベストセレクション』(ひかりのくに)
参考書・参考資料等	鍵盤ハーモニカは各自で準備すること。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(積極性、理解度)	50%	事前事後学修に基づく授業への参加態度
	課題 / レポート	30%	レポート書式での作成、テーマに沿った内容
	発表会の評価	20%	パフォーマンスの完成度、目的との相関性